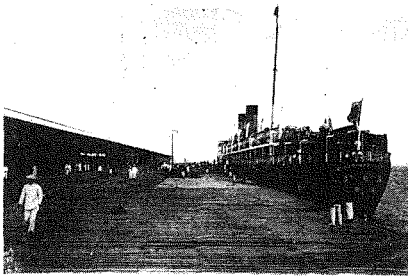
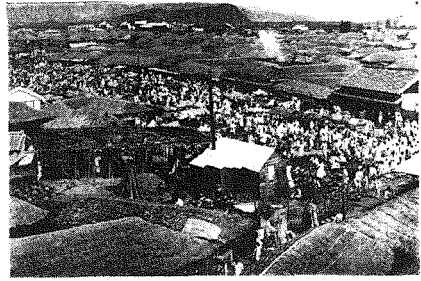


Tale of Korea.

朝鮮の話 其の一



(1) View of Fusan Harbor.



(2) View of Market Street at Taikou City.

朝鮮の話一編は朝鮮鐵道局の手になつたもので、朝鮮のアウトラインを知るに手頃な短編である、内地人の國民常識としても必要な文字である。(編者)

朝鮮は遠い昔から 日本の歴史に最も密接な關係があつて、就中かの 神功皇后の三韓征伐、太閤秀吉の朝鮮征伐などは、子供達でもよく知つてゐる有名な話で、そのほかいろいろ日本とは切つても切れない因縁の深い國であつた、尤も地理の上から見ても朝鮮は

一葦帶水 少しくお天氣のよい日には、海を隔て、向ふの山々が見へる位で、今では下關から僅か八時間で、朝晩二回

鐵道省の絡連船 が釜山との間を往き來してゐる、此朝鮮その頃韓國といつてゐた朝鮮を、明治四十三年八月

帝國に併合 したので今では日本の國の一部、朝鮮の人はとりもなをさず吾々日本の同胞である然るに今尙多數の内地の人達は、朝鮮人といへば一種異様な眼を以て見る人が、少くないやうである、それは何の爲に日韓併合が必要であつたか、そのわけと筋道が理解されてなく、又本當の朝鮮なり朝鮮の人といふものが、よく知られてないからであらうと思ふのである。

東洋永遠の平和 相互民族の幸福増進といふ大精神、之が即ち日韓併合の根本の理由で、少しくその 道に就て話して見ると朝鮮はズット以前御承知の**任那**或は

新羅、高麗、百濟 などいろいろの時代があつて其間何れも我國と親密に交際し、或は我皇室に貢物を獻じたといふやうなことが、史實の上に明らかに遺つゐる、殊に

印度、支那の佛教 が朝鮮を経て我國に傳へら

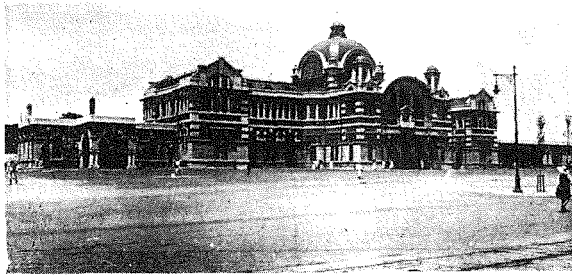
れたとか、その外いろいろの文物が齎らされたといふことが、著しい事蹟として現はれてゐるのである、それからズツ降つて近世五百年間は、北朝鮮の成興といふ所から起つた

李氏の時世 であつたが、其末期に及んで政治が紊れ、國土は極端に疲弊し、民心は所謂頽廢氣分で、自分の生活に直接必要なだけ 外は決して稼がない、貯へないといつたやうな憐むべき習慣性を一般に馴致するに至つた、従つて山林は荒れるがまま、田畑は痩せる一方といふ悲惨な状態で餓死する者も澤山あつたといふ有様であつた、それに一方宮中及政府の官吏は互に策を弄して陰謀相踵ぎ、秕政百出するといふやうなわけで

對外關係 としても明治二十七年、自分の國に起つた東學黨といふ暴徒を、どうすることも出来ない、自ら鎮定する力がないといふので、支那其頃の清國が得たりかしたと、我が屬國の朝鮮を保護するのだと宣言して、朝鮮に軍隊を繰出した我國ではそれは怪しからん、いつ朝鮮は清國の屬國になつたか、日本は斷じて朝鮮を

清國の屬國と認める事は出来ぬ と又一方韓國政府にもそのことを注意したので韓國政府も大に後悔して、なる程自分の國は獨立國だ、どの國の屬國でもない、どうか日本の手で清國の軍隊を退去させて貰ひたいと頼んできた。そこで

日清戰爭 となつたのであるが、其後日本は韓國政府に對し、あらゆる好意を以て、いろいろ政治の改革に盡力したけれども變轉窮りないグラググしたところの韓國政府は、間もなく又露國の勢力



(3) Keijo Depot.



(4) View of Keifukukyu.

に籠絡されるやうになつた、一方露國は日清戦後の講和條約に依て日本が清國から得たところの

遼東半島 を獨逸、佛蘭西と組んで 強て日本の手から清國に返させて、それを恩義に今度は露國自身がその遼東半島の旅順、大連を清國から租借し、續いて事實上廣大な滿洲を、武力で占領するといふやうな横暴なことをやつて、其餘勢を駈つて朝鮮を併呑しやうといふ有様で、延ひては

日本をも脅かし 東方の小島國何するものぞ、大ロシアの鐵袖一觸、一たまりもあるまいといふ恐しい意氣込で、我が神國の形勢は、その時實に**累卵の一大危巖** に遭遇したのであつた、併し我が大和民族には、上に一天萬乘の天皇陛下を戴き奉り、忠君愛國、一死以て國を護るといふ大和魂を持つておる、終に明治三十七八年の

日露戦争 となつて、かの暴慢なる露國を、遺憾なくやつつけたのであるが、その後朝鮮はどうかといふと不相變グラグラで、曩には清國又次には露國と、次々に外國によいやうにされてゐる、朝鮮自身がよいやうにされることはよいが、それでは朝鮮を足溜りとされて、お隣りの

日本帝國が不安 だたまらない、朝鮮が斯くグラグラしてゐる限り、東洋永遠の平和といふものが確立されない、其禍の根を絶つて朝鮮國內の秩

序を整へ、兩國共同の安全利益を圖らなければならぬ、即ち東洋永遠の平和を確保するといふ立て前から、我國は韓國に對して

絶大の保護 を加へることになつたのである、其第一歩として韓國政府と協議して、統監府といふのを設け初代統監として

伊藤博文公 が渡鮮せられたのである、併しまだいけない、土臺に朝鮮の國土といふものが、前述の通り多年の秕政の爲極度に疲弊しておる、頽廢氣分の韓國官吏では、到底統治の實跡を擧げることが出来なし、内外の形勢が朝鮮といふものを徹底的に建て直すには、どうしても

兩國が合體 して局面の展開を圖らなければ、折角佛を造つても魂入れずで、東洋永遠の平和の爲、兩國國民の幸福の爲にはどうしても兩國が合體する外ないといふことに、當時の朝鮮の有識者の多數が考へ、國民全體としてもさうした方が、確に國民の利益幸福であるといふことを悟つて、終に皇帝及政府當局の建白となつた、それから

日本の輿論 も合致したので、茲に兩國官民の熱烈なる同意に基いて、明治四十三年八月愈日韓併合といふ大事業が、至極平和のうちに成立したのである、韓國皇帝が國民の希望を納れられて、此併合に賛成せられたことは勿論で、諸外國も齊しく之に賛同承認したのである。(つゞく)

(1) は朝鮮釜山港棧橋に連絡船の繫留せる景
(2) は南鮮の大都市とせらるゝ大邱の市場で羊の脊を列べた様な草葎の商家の屋根は如何にも朝鮮普通民家代表的なものである

(3) は京城驛全景で如何に堂々たるものかゞ知れる
(4) は京城に在る景福宮の一部で有名な大院君が政治經濟上に非常な無理をして建立したものである